

# 中学校

## 私の憲法学習論（中学校）

—山口百恵の歌から男女平等を考える—

小林 朗

### 憲法学習の意義

憲法学習というとしても平和学習を考えてしま  
うのは中学校社会科教員の宿命だろう。最近刊行され  
た歴史教育者協議会編『ちゃんと学ぼう！ 憲法』の  
二巻目は小中高校の憲法学習の実践集であるが、平和  
学習はどの校種でも根幹になっている。もう一つの柱  
は生存権である。この二つが憲法改悪の標的になって  
いることから当然なことといえる。

私自身、中学校社会科教員になって、二十年以上に  
なるが、憲法学習に公民分野では特に力を入れる。何  
十年も三年生の夏休みは憲法全文を筆記する課題を出  
す。生徒には高校受験に必ず出題されるからと言いな

がら、憲法そのものを知ってほしいねらいがある。

憲法学習で大切なことは、憲法条文に書かれている  
ことが現実の生活で生かされているかどうかである。

実際の生活を踏まえて、憲法を学ばなくては真の憲  
法学習とはいえない。

### 中学生が男女平等を考える

日本国憲法第十四条には「すべての国民は、法の下  
で平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は  
門地により、政治的、経済的又は社会的關係において、  
差別されない」と平等権を明らかにしている。新潟市  
内が使用している教育出版社の公民教科書には平等  
権の事例として、ハンセン病患者問題、男女平等、障

害児問題 部落差別の問題 アイヌ民族への差別問題  
定住外国人(在日朝鮮人)への差別についてあげている。

男女平等を授業で扱う場合、「働く場で男女平等は実現していますか」をテーマにすることが多い。女性に対する差別はいまだに根深い。働く場での男女平等を中学生に考えさせることは現実問題として非常に重要なことである。

私は男女平等については少し角度を変えて授業を展開することになっている。今の新潟市内の中学生は、男子生徒が年々幼くなり、女子生徒は自意識が高くなっている。この現実から、私は男女平等の憲法学習を男子の恋愛関係に絡めて行うことにしている。

山口百恵の歌を教材にして授業を展開する。ただ、現在の中学生在が山口百恵を知らない。三十年前以上に流行した歌を生徒はわからないのは当たり前である。そのため、最近の教材を変えようかどうか正直迷っている。でも、山口百恵の歌の魅力があるのか、中学生は知らない歌を聞いて引き込まれてゆくのである。この歌を教材にしている理由といえる。

山口百恵は音域がそんなに広い歌手ではなかった。女性歌手としては低い声である。しかし、歌そのもの

に不思議な色艶があった。独特の色気があるといつてよいだろう。山口百恵はスター誕生というテレビ番組から歌手になった。その審査員で、最近、亡くなった作詞家阿久悠の作品がないのも特徴である。山口百恵の歌を一層、独自性を発揮させたのが作詞阿木耀子と作曲宇崎竜童夫妻の作品である。独自なりズミカルな曲にストーリー性のある歌が多く、ファンを魅了した。私の授業は山口百恵の歌「横須賀ストーリー」「プレイバックPART2」「絶体絶命」の三曲をまずセットで生徒に聞かせる。

一曲目の「横須賀ストーリー」は「これつきりこれつきり」を繰り返す特徴的な歌である。一九七六年六月二日にリリースされ、売り上げは山口百恵の歌で最高を記録した。「街の灯りが映し出す あなたのの中の見知らぬ人 私は少し遅れながら あなたの後歩いてい」と男性の後を歩いて行く女性を歌っている。歌全体も女性は男性に従うものを表現している。

二曲目の「プレイバックPART2」は「馬鹿にしないでよ」とセリフで一世風靡した。一九七八年五月一日にリリースした歌である。「緑の中を走り抜けて真紅なボルシェ ひとり旅なの 私気ままにハンドル

切るの 交差点では隣の車がミフィーこすつたと 怒鳴っているから私もついつい大声になる

馬鹿にしないでよ そっちのせいよ ちよつと待つて PLAY BACK PLAY BACK 今の言葉 PLAY BACK PLAY BACKと 刺激的な歌詞が続く。この歌は女性が男性にきつい言葉を吐くことが基本となっている。けれども、あくまで女性は言葉以上に男性に対して優しい。表面は男性につらくあたっている女性だが、心は男性を頼っていることがよくわかるのである。

「プレイバックPART2」からすぐ三ヶ月後の八月二日に三曲目の「絶体絶命」がリリースされた。三角関係の歌である。中学三年生にも難解ではあるが、フィリングでつかませる。曲調はテンポが速く、「はつきりカタをつけてよ」のフレーズが中学生の耳に残る。「別れて欲しいの 彼と そんな事は出来ないわ 愛しているのよ 彼を それは私も同じ事」二人共 落着いてって言ったわ 三人模様の絶体絶命」と刺激的に続く。この歌は二番が圧巻である。「一輪差しの薔薇の花 その人はずらし涙を隠すの チラリとのぞく唇はコーヒーカップと一緒に震えているそこへ彼話

しかける彼 二人共 愛してるって言ったわ 人間模様の絶体絶命 さあさあ さあさあ すっかりカタはついたわ(三回続く) やつてられないわ その人の涙の深さに負けたの bye bye bye やつてられないわ(二回)」という歌詞である。

二人共好きだと優柔不断に言う男性。もう一人の彼女の涙に負けたと言いながら、主人公はその男性の情けなさにあきれてしまうのである。

この三曲を並べて聞くと、女性の成長がうかがえるのである。男性の後ろについて行く女性が男性に「馬鹿にしないで」と強がりを行い、最後は頼りない男性に愛想をつかす設定である。まさに歌詞にストーリーがある。

女子生徒は教室にいる男子を見て、本当に頼りないという表情でみつめる。大半の女子生徒は宮崎駿作品「耳をすませば」のイタリアへバイオリン職人なる男子生徒に憧れている。男子生徒は「どうせ俺たちは」とあきらめがちである。しかし、男子生徒の中には就職差別を真剣に怒っている子もいる。中学生時代の男子は非常に正義感が強い生徒も少なくないのである。この三曲を聴きながら、男子生徒は初めて「女性」

の気持ちを感じる子たちもいる。男子生徒たちは男女間の社会的差違を自覚していく。

この三曲の解説をある程度した後には、「これらの曲のように女性が徐々に成長するようになったのはなぜか」と生徒に問いかける。生徒は男女が平等になっていくためには仕事上、女性が自立していくことを指摘する。特に、給与が男性と同じにもらえること、結婚しても仕事が続けられることが生徒にとって大切なことだと気がつく。これを受けて、教師が男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法など法的に女性が社会で認められたことをまとめる。

この授業の最後にはいかにこのクラスの女性たちが就職する時に厳しい現実と直面することかを話してしめ括るようになっている。

憲法第十四条の平等権には形式的平等と実質的な平等があることは憲法学の通説である。憲法の形式的平等が基本であるが、合理的な理由で法律上の差、実質的平等がある。後者が女子生徒は年齢を重ねることに味わっていく。この授業が中学生にとって、男女平等を考えていくきっかけになっていけばよいと強く思っている。

(こはやし あきら・新潟市立小須戸中学校)

## 原水爆禁止2008年世界大会に参加して(二) 多くの外国からの参加と 発言に励まされる

集会および分科会には、初めて参加した国連の代表をはじめ、マレーシア駐日大使、フランス、イギリス、アメリカ、ベトナム、フィリピン、タイ、韓国、オーストラリア、アフガニスタン、中国などなど数多くの外国代表者が次々と登壇して、核兵器廃絶に向け取り組んでいる様子や連帯を呼びかける姿に、「私たちの苦しみを再び繰り返してはならない」と被爆者の核廃絶を訴え続けてきた粘り強いたたかいととも、日本原水協の被爆者の実態やその願いを世界に届け、その大きな広がりを示すものとして、感動を覚えました。

若者たちや諸外国の報告者からの今後の運動―核廃絶に向け2010年の核不拡散条約(NPT)再検討会議(注)を成功させる―の提起は、核はなくせるという確信を与えてくれるものでした。

(註は四にあります。)

(内山)